

誰にもやさしい
まちづくり



岐阜県高山市

1. まちづくりの考え方

高山市では、全ての市民が住みやすく、また、住みつづけたいと思うまちが、訪れる人にとっても訪れやすいまちである「住みよいまち、行きよいまち」を基本的な考え方として、「安全・安心・快適なバリアフリーのまちづくり」に取り組んでいます。

この取組みに、ユニバーサルデザインの視点も加え、少しでも多くの人にとって過ごしやすい「誰にもやさしいまちづくり」をすすめています。



バリアフリー

高齢者や障がいのある方などが社会生活をしていくうえで、バリアとなるものを取り除こうという考え方です。

ユニバーサルデザイン

障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ、都市や生活環境をデザインする考え方のことです。

今日では、情報やサービス、コミュニケーションも含む「全ての人が生活しやすい社会のデザイン」という広い概念で使用されています。

2. 高山市の取り組み

●モニターツアー

平成8年から行っているツアーで、毎年1～2回障がいのある方や外国人の方などに高山を観光していただき、どこにバリアがあるか、何がバリアとなっているか意見をだしていただく取り組みです。



陣屋前朝市を散策するモニターツアー参加者

〈モニターツアーの意見〉

始めの頃の意見

- ・ 道路のデコボコや段差が多く、介助がなくては移動できない
- ・ 車いすで入れる店が少ない
- ・ ホテルの部屋やトイレ、浴室に段差があって使いにくい
- ・ 店員が、障がい者自身ではなく、介助者に問いかける



取り組みをすすめてからの意見

車いす使用者

- ・ 利用できるトイレが多くて安心
- ・ 点字ブロックが通行の邪魔になる

視覚障がい者

- ・ 道が平らすぎてどこを歩いているかわからない

聴覚障がい者

- ・ 緊急情報は音だけでなく文字で伝えることが必要

2. 高山市の取組み

●道路の改修

安全にまちを歩くことができるよう、歩道の段差解消、網目の細かいグレーチング（側溝蓋）への取り替えなどを順次すすめています。

〈歩車共存型道路の整備〉

改修前



- ・歩道が狭い
- ・歩道と建物の間に大きな側溝がある

改修後



- ・歩道を広くした
- ・側溝に蓋をして、カラー舗装を施した
- ・車の減速を促すため、車道のセンターラインをなくした

〈グレーチングの改修〉

改修前



- ・網目が大きく、車いすやベビーカーの車輪が落ち込んでしまう

改修後



- ・網目を1 cm 以下の細かなものに取り替えた

〈融雪ブロックと「知らせるあかり」の整備〉

改修前



- ・夜は暗く、横断歩道を渡ろうとする歩行者が車から見えにくい
- ・夜や積雪時、車道と歩道の境界がわかりにくい
- ・点字ブロックが雪で埋まってしまう

改修後



- ・明かりをつけて境界をわかりやすく、車から歩行者を見えやすくした
- ・融雪・発光機能がある点字ブロックを横断歩道前に取り付けた

●快適公衆トイレの整備

安心してまちを歩くことができるよう、車いす対応トイレや多目的トイレの整備をすすめています。

〈ポッポ公園公衆トイレ〉



(出入口のサイン)

- ・イラストで表示
- ・触地図や点字もある案内板を設置

多目的トイレの内部

着替え台（使用するとき
引き出します）

オストメイト対応排泄物
（人工肛門・人工膀胱をつけた
人が使用します）

車いす対応便器
（固定式の手すり
と可動式の手
すりがあります）

ベビーチェア
（お子さんと
一緒に入れます）

小児用便
器（背の小
さなお子
さんも使
用できま
す）

洗面台の両側に手すり
があります

ユニバーサル
シート（大人
のおむつ交
換ができま
す）

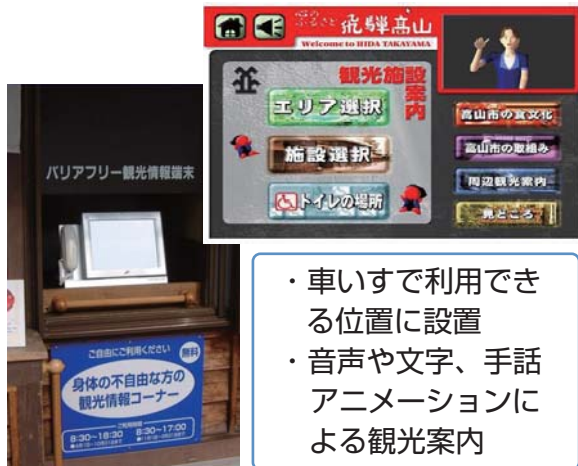


2. 高山市の取組み

●情報バリアフリー

必要な情報が入手できるよう、情報提供についてバリアフリー化をすすめています。

〈観光情報端末〉



- ・車いすで利用できる位置に設置
- ・音声や文字、手話アニメーションによる観光案内

〈まちの中の観光案内板〉



- ・日本語
 - ・英語
 - ・中国語
 - ・韓国語
- の4言語で表記

〈市のホームページ〉



- ・音声読み上げや文字拡大機能
 - ・観光情報は日本語を含め12言語で記載
- (ホームページアドレス) <http://www.hida.jp/>

●マップ、冊子の作成



障がいのある方や外国人の方にはこういった対応を心がけるとよいかを解説した冊子や視覚に障がいのある方向けの観光マップなどを作成し、配布しています。

- ・おもてなしの匠心得帳
- ・飛騨高山ぶらり散策マップ(多言語) などを作成

●民間事業者の整備支援

施設のバリアフリー化やタクシーサポートシートの導入がすすめられており、改修経費を補助しています。

〈安全・安心・快適なまちづくり事業補助金〉

民間施設等のバリアフリー改修費用を助成
限度額 200万円
(タクシーサポートシートは15万円)
補助率 2分の1

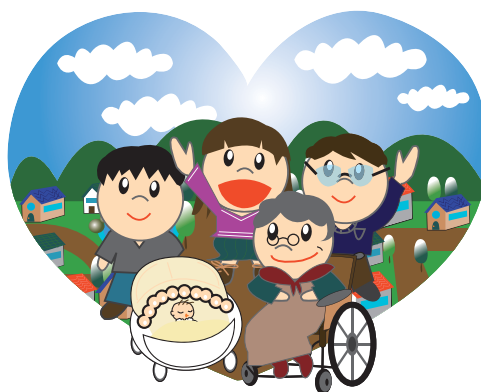
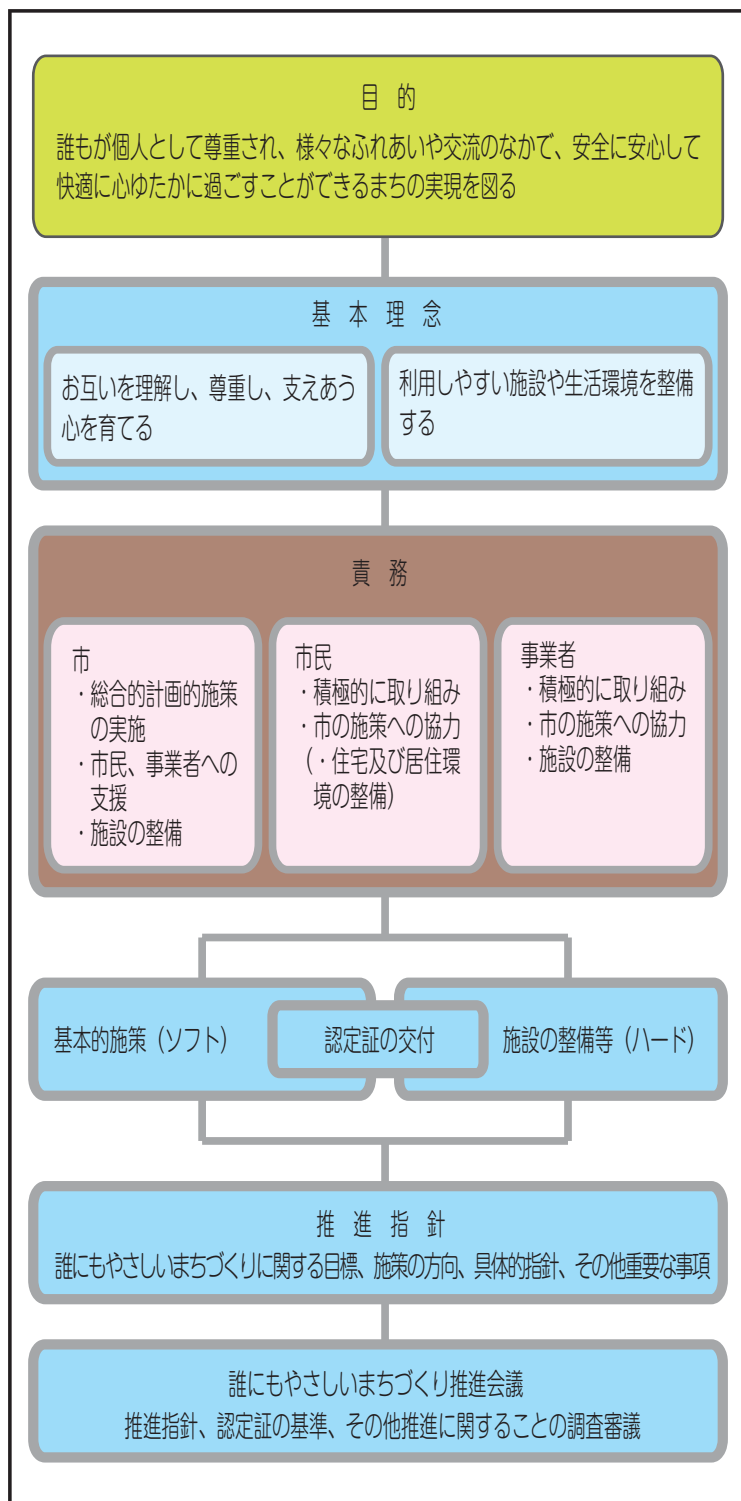
〈中小企業設備近代化資金融資〉

民間施設等のバリアフリー化資金を融資
限度額 600万円
利息 無利子
借入期間 5年間

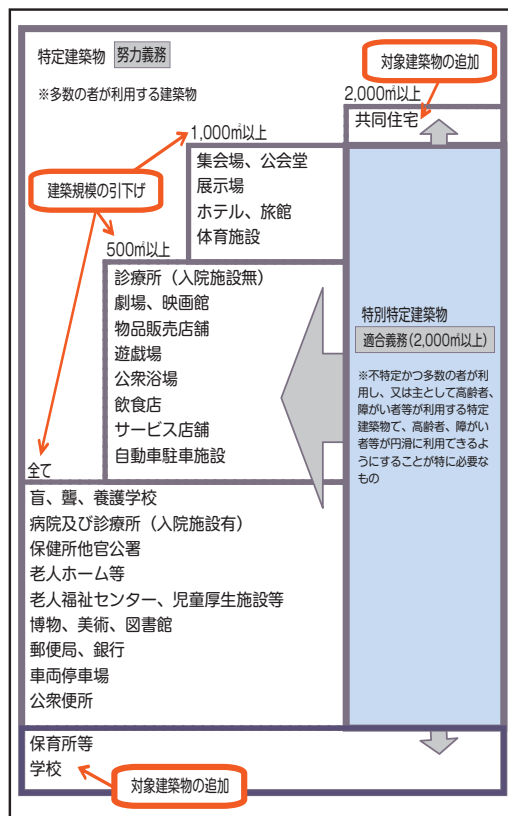
●誰にもやさしいまちづくり条例 【平成17年3月制定】

バリアを取り除くまちづくりから、バリアを生まないまちづくりに向けた、ユニバーサルデザインの考え方に基づくまちづくりの基本的な方向を示す条例です。

条例の概要



法で定める整備基準に適合しなければならぬ建築物の種類への追加、対象となる建築物の規模の引下げ、適合させる基準の強化をしています。

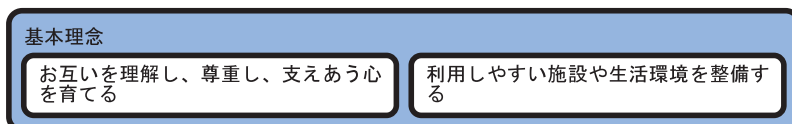
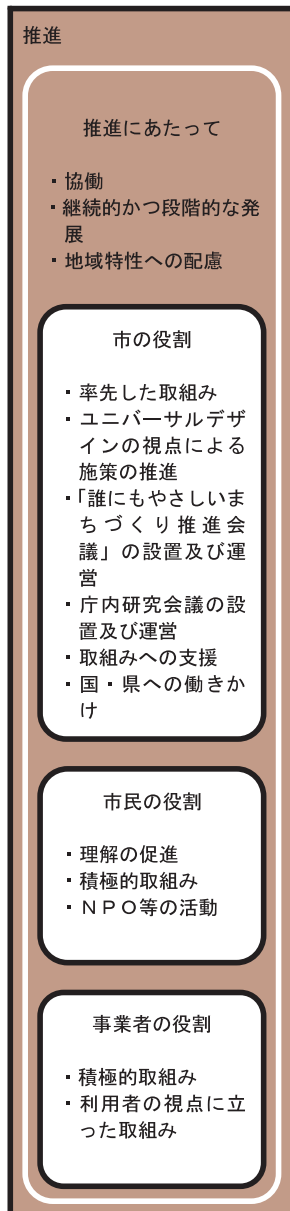
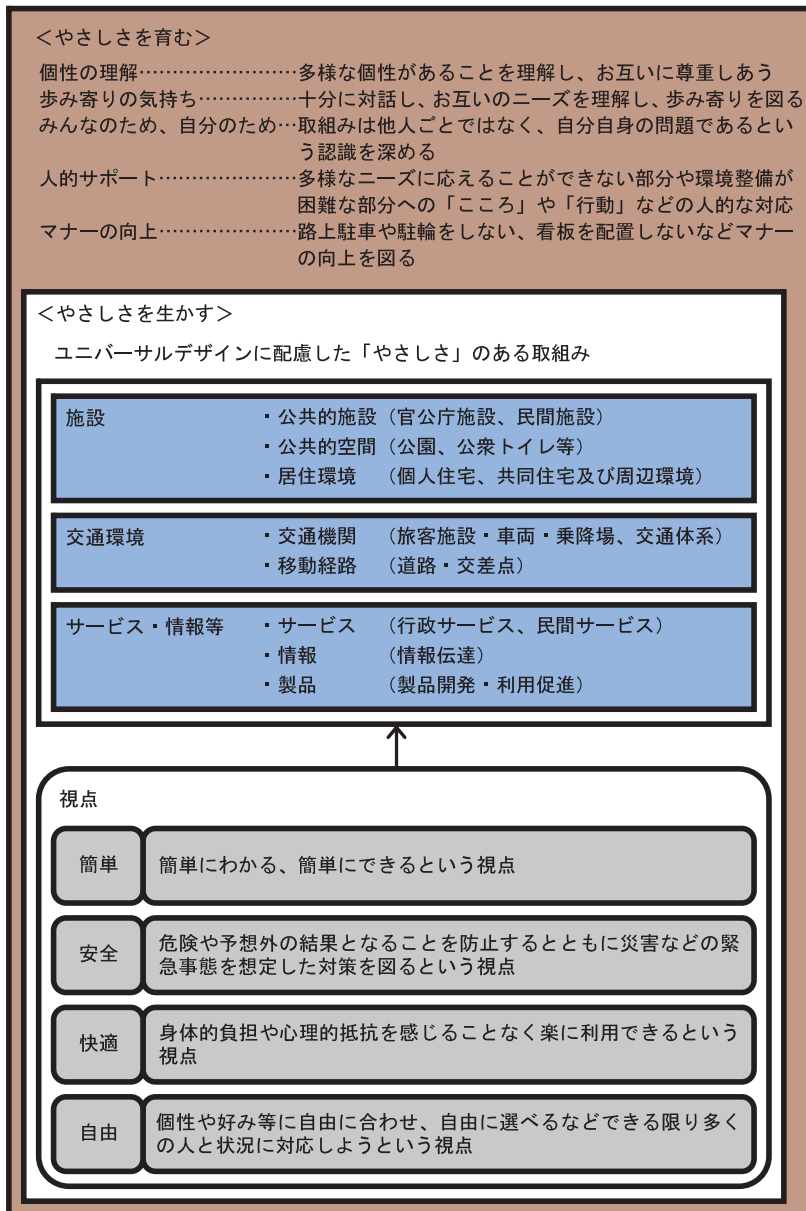
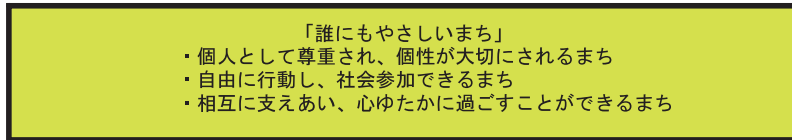


2. 高山市の取組み

●誰にもやさしいまちづくり推進指針【平成18年3月制定】

誰にもやさしいまちづくり条例に基づき策定し、関係する施策を推進するための目標や施策の方向、具体的な方針を示しています。

推進指針の概要



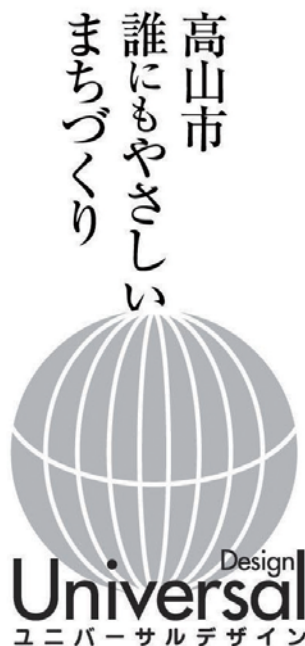
●誰にもやさしいまちづくり認定制度

ユニバーサルデザインの取組みをすすめる民間事業者などを認定して、マークを交付します。

〈サービス等ソフト部門のマーク〉



〈施設整備等ハード部門のマーク〉



●ユニバーサル e ステーション事業

【平成16年度～平成18年度】

障がいのある方や高山を初めて訪れる方などが移動しやすいまちとなるよう、音や光、情報通信技術を活用した実証実験を通じて、検討する事業に取り組みました。



・音声や表示板による案内システム

●“飛騨高山” 自律移動支援実証実験

【平成20年度】



・ユビキタスコミュニケーターによる情報の自動配信

3. 誰にもやさしいまちづくりをすすめるために

高山市では、いろいろな取組みをすすめています。市民のみなさんと事業者の方々の協力と参加が必要です。

●市民や事業者の責務は

誰にもやさしいまちづくり条例 (P6) で市・市民・事業者の責務を定めています。

■市民のみなさん

誰にもやさしいまちづくりについて理解を深め、積極的に取組むよう努めること
市が実施する誰にもやさしいまちづくりに関する施策に協力すること

■事業者の方々

誰にもやさしいまちづくりについて理解を深め、積極的に取組むよう努めること
市が実施する誰にもやさしいまちづくりに関する施策に協力すること
設置、管理する施設を誰もが利用しやすいような整備に努めること

●どのようにすすめるの

■市・市民・事業者の協働

市だけでは誰にもやさしいまちづくりはできません。みんなで協働して、みんながすすめることが必要です。

■改善しながら取組み続ける

ユニバーサルデザインには答えやゴールがありません。どういう取組みが必要か検討を重ねることが大切です。

■高山市の特性にあったユニバーサルデザイン

地域に根付くよう、日本一広大な面積や国際観光都市、積雪寒冷地などに配慮することが必要です。

4. 身の周りにあるユニバーサルデザイン



●自動販売機

子どもや車いすの人が使用しやすい位置にボタンやお金の投入口があります

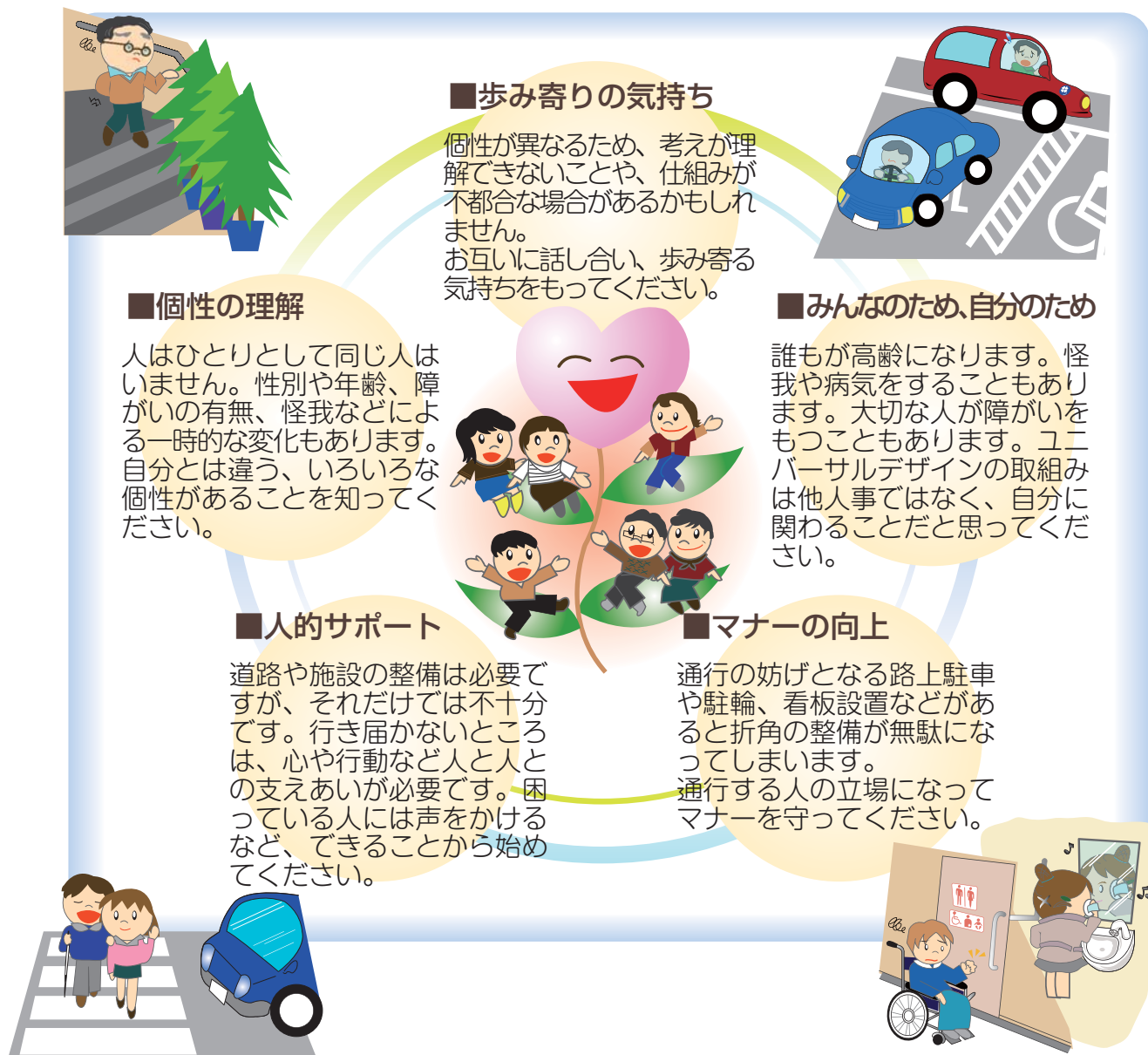


●シャンプーのデコボコ

目を閉じて、視力が悪くてもシャンプーとリンスが区別できるようにシャンプーにデコボコがついています

●自分にできることは

みんながそれぞれ持っている「やさしさ」を育むことが大切です。



身近にも様々なユニバーサルデザインがあります。どのようなものがあるか見つけてみてください。



●エレベーター

音声案内、手すり、低い位置にある操作ボタン、うしろを見えるための鏡などがあります



●階段の2段手すり

背の小さい人も大きい人も使えます



高山市の概要

- ・面積 2,177.67km²
- ・人口 96,231人(H17国勢調査)
- ・高齢者(65歳以上)の割合 23.9%(H17国勢調査)
- ・観光客数 3,812,000人(H22観光統計)
うち外国人観光客数 187,000人
- ・障がい者の割合 約6%